

NOW IS.

宮城は^{いま}現在も
^{いま}現実に
立ち向かう。

Vol.
19
November, 2017

ナウイズ
毎月11日発行

テイリーナ・カリリーナ
in
山元

だって、皆さんの目は
こんなに輝いてる。



復興芝生の前で

老舗の工場も新しい取り組みも。 山元町をティーナ・カリーナさんと

被災した土地だからこそ
生まれた復興芝生

「わあ！ひろーい！きれい！」

秋晴れの青空に一面の芝生。目が覚めるようなコントラストに、車を降りたティーナ・カリーナさんは声を上げます。この日のスタートは「復興芝生の畑。被災した土地を活用して芝生を栽培しています。」山元で芝生をつくっているなんて知らなかった。この景色、津波がきた場所だなんて、思えないですね。

芝生の生産がスタートしたのは平成24年4月。惨状を見たときは涙も出なかった。でも1年たって何かしようと思って、ミネラルを必要とする芝生だったら、と思って、種をまいたんです。そ



地下水を汲み上げるポンプ。海岸からほど近く、海抜が低いので、ミネラルを含んだ豊富な地下水が芝生の成長を促しています。

う話すのは、復興芝生を運営する東日本復興芝生生産組合の大坪征一社長。除塩していない畑でもちゃんと芝が成長したんです。周囲に日光をさえぎるものがあったのも幸いしました。皮肉なことですけどね。平成26年に初出荷。宮城スタジアムや豊田スタジアムでも採用が決まりました。畑を案内してくれた圃場長の太坪丈幸さんは「いい芝生でしょう。こうなるまでにすごく手間がかかるんですけどね。専門家の意

見を聞きながら、ここまで育てましたと誇らしげ。ティーナさんは「こんなに愛情かけて育てられているなんて。芝生を見る目が変わりました」と目を輝かせます。

もっと自慢して！ 新しい山元町の魅力

次に訪れたのは、ブドウ液「マルタのきぶど」で知られる大正7年創業の田所食品。山元町では



「濃厚なのに、飲んだあとさわやか」とティーナ・カリーナさん。



震災後、新たに栽培しているシャインマスカット。

昔からブドウの生産が盛んです。ティーナさんはこれ大好きなんです！酸味があつて、とっても濃厚！「これしそにグラスを傾けます。社長の田所さんはグラスに紫色が残るでしょう。これが濃さの証拠なんです。絞ってから2年寝かせるんですよ。震災の時は、津波で流された熟成タンクを回収して歩いたそう。近くに新しい駅もできましたし、直売所も開業する予定です。収穫体験もやりたいですね。田所さんはイキイキとそう話してくれました。

ティーナさんは大阪出身。仙台の音楽事務所に所属するため、平成24年3月に引っ越してきました。不安がなかったかつて、よく聞かれるんですけど、私には希望の土地のように見えました。そこから5年活動して、いろいろな人と出会えば出会うほど、ここに来る意味があったなと思うんです。ご縁は間違ってたなかつたって。



1Fのロビーでは、震災時の状況と市街地が完成するまでの様子などが展示されています。

新しい山元町のそばつばめの杜ひだまりホールは避難所を兼ねた施設です。多くの住民が移転した新たな土地で、町民の安全とにきわいを生み出しています。広い備蓄室や震災の記憶を伝えるホールを見学して「ここがあれば安心して暮らせませぬ」とティーナさん。今日印象的だったのは、どなたも目をキラキラさせてるところ。本当に輝いてた。山元って、今たくさん魅力が生まれています。こんなにすこいまちなんだよって自慢してっと思えます。」

山元町は、復興の勢いで、新しい山元町の魅力を発信しています。山元町の魅力を発信しています。山元町の魅力を発信しています。



PROFILE ティーナ・カリーナ

大阪府出身のシンガーソングライター。東日本大震災後まもない時に、阪神・淡路大震災を経験した彼女の歌声が、復旧作業の日々を送っていた仙台のプロデューサーの心に響き、拠点を移す。大阪出身・仙台発信アーティストとして活動している。

沼田佐和子

a walk ! this town !

この街の“今”を探る

復興芝生

スポーツ店や芝生設計会社、運動施設関連会社、山元町内農家ら6人が「東日本復興芝生生産事業株式会社」を設立。津波で更地となった農地で芝生を生産し、「復興芝生」の産地化を目指しています。雇用創出の期待も寄せられています。

田所食品株式会社

古くから山元町のブドウ生産・加工を行い、「マルタのきぶど」のジュースは看板商品。津波により甚大な被害を受けましたが、ブドウ原液の一部が無事で経営再開を決意。ブドウ液の復活と6次化ブランドの確立を目指し取り組みを行っています。

山元町防災拠点 山下地域交流センター

山元町つばめの杜地区に「つばめの杜ひだまりホール」(愛称)として平成29年9月30日に開所。設計の段階から地域住民の意見を聞き、耐震性貯水槽やマンホールトイレなど防災機能も整備し、災害時には避難所として使用できるよう建設されました。

旧中浜小学校

津波の被害を受けた旧中浜小学校の校舎を、震災遺構として保存する計画を進めています。校舎の1、2階と、津波襲来時に児童ら90人が避難して助かった屋上の一部を公開する予定。宮城県南部では唯一残る本格的な震災遺構となります。

みんなの写真館

旧山下駅前で橋元商店の店主が運営している写真館。被災後、縮小営業していた橋元商店の店内に写真を貼っていたのが、はじまり。使わなくなった倉庫を写真館として再利用し、震災前後の様子を写真などを掲示しています。

山元町(深山からの眺望)

PROFILE
山元町 保健福祉課 子育て支援班
たかはし ゆうた
高橋 勇太 さん
新潟県上越市より山元町に派遣

多様な保育サービスの拡充を。



「昨年の熊本地震が起きて、より被災地の支援をしたいと思うようになりました。そう話す高橋さんは、平成24年に新潟県上越市に入庁、健康保険の給付業務を経て、社会教育課で上越市立公民館を中心とした生涯学習活動の推進業務に取り組んでいました。被災地支援があることは入庁当時から知っていましたが、当初は技術などハード面の応援職員の募集が多く、機会を伺っていました。平成29年4月に希望が叶い、山元町保健福祉課の子育て支援班に配属されました。」

山元町では、平成27年度より新たに子育て支援班を設置し、「子育てするなら山元町！」をスローガンに子育てにやさしいまちづくりを目指して、さまざまな取り組みを行っています。「山元町では、ベッドやバスの

「保育の需要が高まることにより、保育士不足の問題はもちろん、病児保育や障がい児保育などの保育サービスの拡充が現在の課題。課内一丸となって整えているところです。来年度に向けて施策も考案しているそうです。」

「役場に訪れる方々を、職員の誰かは知っていてあたたかく声をかけるなど、山元町役場は住民との距離がとてに近いと感じています。上司が自分の意見をどんどん吸い上げてくれるのもありがたいですね。」と高橋さん。私の任期は1年でやれることは限られているかもしれませんが、住民のみなさんの需要に答えられるよう、新しい支援の施策・取り組みを頑張りたいですね」と話してくれました。



山元町児童館の館長との打ち合わせ。



つばめの杜保育所で子どもたちとふれあう高橋さん

Support Power

記者の視点



筆者プロフィール
河北新報社亘理支局
あだち こうたろう
安達 孝太郎 さん
1973年生まれ、東京都出身、1998年入社、亘理支局

時を経た思い被災地へ

「あ」の時、自分は何もできなかった。東日本大震災被災地を訪れる学生ボランティアからこんな言葉を聞くことが少なからずある。

8月、山元町で出会った大学2年生芝沼佳奈さん(20) 埼玉県川口市出身で、震災時は同市泉区の中学1年生。ライフラインが途絶え、小学校で避難生活を送った。

沿岸部では無数の命が失われた。海から離れていても同じ時を生きていた大勢の子どもたちは無常な現実には傷付き、そして苦しんだのかも知れない。震災当時を振り返る若者の言葉に、そんなことを今更ながら考えさせられた。芝沼さんは、首都圏の大学に入学後、「故郷への思いが膨らんだ」とボランティア団体に入った。仲間と何度も長距離バスで山元町

を訪れ、イベントの手伝いなどをしていく。「住民の地域への思いに心を動かされた」と言う。

ボランティアを受け入れる側も、そんな若者に応えようとしている。8月、芝沼さんら学生が活動拠点になっている町沿岸部の普門寺で夏祭りが開かれた。

祭りが企画された背景には、震災直後の被災地を知らない学生が多くなったことがあった。「住民と触れ合い、当時のことを知ってほしかった」と中心メンバーの坂野文俊住職は言う。祭りには200人もの学生が参加した。境内の活気に住民は大喜びだった。

震災時の苦い記憶を胸に活動を始めた若者と、その思いを受け止めようとする住民が山元町にいる。両者の思いが結びつき、街づくりの新たな原動力になる予感がする。

楽しみながら備えの知識を!

NOW IS. 防災

大震災を経験しても、時間の経過とともに防災意識は薄れてしまうもの。忘れないためには、楽しみながら防災を学ぶなどの工夫が必要です。地域防災の意識向上を目的とした仙台市岩切地区の団体「いわきり防災エンパワメント」が手掛けた、「いわきり防災かるた」を参考に考えてみましょう!



宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

【お知らせ】

「いわきり防災エンパワメント」では、防災関連イベントの講師等の依頼も受け付けています。詳しくは080-1850-4179(菅野)までご連絡ください。



【取材協力】

いわきり防災エンパワメント 育村みどりさん
児童福祉を担当する主任児童委員として活動。仙台市地域防災リーダー(SBL)として、主に小中学校との連携を図る役割を担う。

防災かるたのヒント

1 防災を遊びに取り入れよう!

「かるた遊び」を通して、覚えておきたい備えの知識を楽しみながら学べます。子どもから大人まで夢中になれる遊びなので、家族の団らんや地域イベントに積極的に取り入れてみましょう。

2 地域の魅力を入れて覚えやすく!

「防災かるた」の読み札や絵札を、自分たちで考えて作ってみましょう。具体的な地名や名所、特産品など、地域の特色や魅力を詰め込んだ内容にすると、さらに覚えやすく自然と防災知識が身に付きます。

岩切の子どもたちと一緒に作った「いわきり防災かるた」



いわきり防災エンパワメントのサポートのもと、岩切の子どもたちが読み札から絵札まで、自分たちで考えて作った「いわきり防災かるた」。「けんみんの森 火災があったらすぐ逃げる」のように、地域色を取り入れた内容になっています。

地域の人の心を利用して もらいながら、 多くの人の心の拠り所に。



(上)笑顔で接客をする施設スタッフ。ほっこりとした癒しの空間になっています。
(左)車いすでも利用しやすいようスロープを設けるなどの工夫も。
(右)クッキーやケーキなどの焼き菓子は毎日手作りでしています。

心の復興の過疎地になってはいけない

社会福祉法人 山元町社会福祉協議会が運営する「工房地球村」。ここでは、精神障害などによって就労が難しい人たちのサポート等を行っています。

「震災による津波で、沿岸の清掃や、町の名産品であるイチゴを使ったジャムづくりなど、施設利用者さんが行っていた仕事が無くなってしまったんです。仕事が無くなってしまったことで、利用者みなさんの心の拠り所がなくなりました。小泉さんは話します。

山元町は、町の37%が浸水、600名を超える命が失われたにもかかわらず、震災後、地元住民が「見捨てられた町」と嘆いたほどに情報や支援が遅れました。町では、障害のあるなしにかかわらず、誰もが困難の中にいたのです。そんな中、佐

賀島の精神科医である弟子丸和博医師をはじめとする精神医療チームが、山元町で施設利用者とその家族へのカウンセリングを開始。小泉さんは「弟子丸先生は、「山元町が心の復興の過疎地になってはいけない」と、とても熱心に活動してくださいました。そして、先生のお仲間みなさんも先生に寄付金を託してくださいました。」

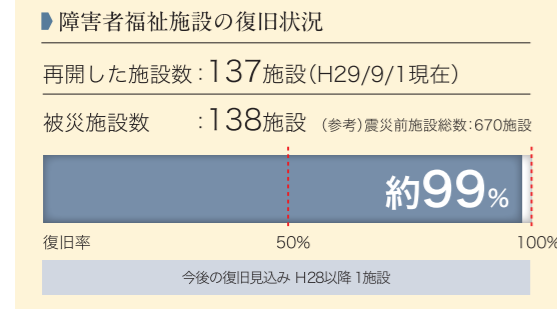
その寄付金をもとにトレーラーハウスを購入し、「山元町みなさんの心の拠り所を」として作られたのが、「カフェ地球村」。しかし、施設利用者はもちろん、スタッフですらカフェの運営はまったくの未経験。「そこで、震災で廃業した巨理町の旅館の女将さんに接客の指導をいただきました。そして、「コーヒー界のレジェンド」といわれる田口護さんがオーナーを務める東京の『カフェパッハ』で研修を受けました。技術はまだ遠く及びませんが、「おいしいコーヒーを出したい」という気持ちはしっかり芽生えたようです。

カフェで提供するメニューや制服も施設利用者とスタッフが考え、ついに2012年11月15日、「カフェ地球村」が誕生。今では、地域住民のみならず、さらには県内外からも「おいしいコーヒーを飲みに来たよ」と、お客さんがやってきます。施設利用者も、店員として働くようになってから、身だしなみに気を遣うようになったり、恥ずかしくて人と話すことができなかったのが「ご注文は？」とオーダーを取りに行くことができるようになったり…。地域の方たちとの掛け合いの中で、いい変化が起こっているそうです。

小泉さんは「この唯一の弱点は、立地の悪さ。今後はワークショップなどで地域の方に気軽にご利用いただき、もっともっと多くの方とつながっていきけるような場づくりをしたいと思っています」と、目を輝かせます。健常者も障害のある方も共に笑顔になれる場所。それが「カフェ地球村」なのです。



PROFILE
工房地球村
こいずみ たけし
小泉 大輔さん
山元町生まれ。大学卒業後、社会福祉法人 山元町社会福祉協議会勤務。現在、山元町共同作業所施設長。障害者の方が、その人らしく生きることができるよう、作業支援を行っている。



01 被災者を雇用する事業主を対象とした助成金のお知らせ

県では、宮城県事業復興型雇用創出助成金の申請を受け付けています。

【対象】
県内の沿岸部に所在する事業所において、平成29年1月1日から11月30日までに被災者を雇用した事業主

【助成金額】
労働者1人当たり最大120万円

【募集期間】
10月16日(月)～11月30日(木)
申請には一定の要件がありますので、詳しくはホームページをご覧くださいか、下記にお問い合わせください。

◎ 県雇用対策課
☎.022-797-4661



02 気仙沼市立病院が開院しました

10月29日に、新築移転した気仙沼市立病院が開院しました。

新病院は、地上6階、地下1階建てで、内科や外科など18の診療科を備え、多くの方が快適に利用できるユニバーサルデザインを取り入れた施設となっています。また、ヘリポートの設置や免震構造の採用など災害拠点病院としての機能も有しています。

地域医療と災害医療の拠点病院として、地域の方々に安心・安全の医療を提供してまいります。



◎ 気仙沼市立病院
☎.0226-22-7100
http://www.kesennuma-hospital.jp/

◎ 県医療政策課
☎.022-211-2617

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!

http://www.fukkomiya.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ



いわたかれん
復興フォト
岩田 華伶



これまでの被災地訪問は80回を超える岩田さん。「写真」に願いを込めて、月1回被災地の状況を発信しています。今回訪れたのは気仙沼市。震災伝承にも力を入れている「シャークミュージアム」を訪れました。

宮城発!
元気と食の
最新情報

一般社団法人
IkiZen

震災復興に軸足を置き、被災地の企業の販路開拓や商品開発、広報活動支援などを行っています。



このブログでは、被災地企業や団体のさまざまな取り組みを発信しています。今回は、名取市のJAZZ喫茶「JAZZ in パプロ」。震災時のまま時を止めていたお店が動き始めます。再開までの経緯や想いをご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信! 復興みやぎ SNS「いまを発信!復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiya」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 **NOW IS.メールマガジン** で検索して登録!



芝生を楽しむ!?

「復興芝生」は来年から愛知県豊田市の「豊田スタジアム」で使われます。このスタジアムは、平成31年にラグビーワールドカップが行われます。また、平成32年東京五輪・パラリンピックのサッカー会場となっている「宮城スタジアム」にも採用が決まりました。来年3月に山元町で種をまき、約1年半かけて管理したのち、張り替えが行われます。試合をひと味違った見方ができると、今からとても楽しみです。



Vol.
19
November, 2017

ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在も
現実に
立ち向かう。

NOW IS.



工房地球村

小泉大輔

“つながる場所”として、
このカフェを大事にしたい。

イチゴやリンゴ、そしてほっき貝の産地として知られる自然豊かな山元町。ここに、障害を持つスタッフが元気いっぱい働く「カフェ地球村」があります。丁寧に淹れた自慢のコーヒーを楽しみに通う地元住民の方、そして毎年大人気のアップルパイを買い求めるために県外からやってくるお客さん。いろいろな人の笑顔があふれるコミュニティカフェが誕生したの

は、東日本大震災がきっかけでした。

カフェを運営する社会福祉法人 山元町社会福祉協議会「山元町共同作業場」の施設長・小泉大輔さんはいいます。「ここは、震災後多くの皆さんの支援でできた場所。施設の利用者と地域の皆さん、そして全国の皆さんをつなぐ場所として、ずっとずっと大事にしていきます」と。